

京都大学における Learning Management System を利用した、留学生を対象とする日本語プレースメントテストの支援と現状について

外村 孝一郎¹⁾, パリハワダナ ルチラ²⁾, 梶田 将司^{3,4)}

1) 京都大学 企画・情報部

2) 京都大学 国際高等教育院附属 日本語・日本文化教育センター

3) 京都大学 情報環境機構 IT 企画室

4) 京都大学 学術情報メディアセンター

tonomura.koichiro.8c@kyoto-u.ac.jp

Current Status and Supporting for Japanese Language Online Placement Test for Foreign Students using Learning Management System at Kyoto University

Koichiro Tonomura¹⁾, Palihawadana, Ruchira²⁾, Shoji Kajita^{3,4)}

1) Planning and Information Management Department, Kyoto University

2) Institute for Liberal Arts and Sciences (ILAS), Kyoto University

3) Institute for Information Management and Communication, Kyoto University

4) Academic Center for Computing and Media Studies, Kyoto University

概要

京都大学情報環境機構ではオープンソースの Learning Management System である Sakai を授業支援のための学習支援環境（愛称:PandA）として全学に向けて提供すると同時に、授業以外の学内の教育プログラムに対しても機能を開放している。京都大学附属 日本語・日本文化教育センターでは、海外から本学への留学生に対して、日本語の授業を開講しており、留学生それぞれの日本語習得レベルに応じた速やかなプレースメント（クラス分け）を必要としている。一般的に、留学生は入学時点まで入国していない事が多く、遠隔地からのプレースメントテスト受講が必要である。このため、2017 年度から PandA を利用することで e-Learning 化を行い効率化を図っている。本報告では日本語プレースメントテストの e-Learning 化に際して、情報環境機構で行っているサポートと運用について述べる。

1 はじめに

京都大学では、全学的な観点から情報基盤の整備を行っている情報環境機構により、全学的な学びをトータルに支援することを目的に、PandA(People and Academe) のブランド名で全学の授業に提供している [1]。また、授業以外の本学の学生に対する教育目的にも開放しており、申請ベースにより e-Learning システムの機能を提供している。

京都大学 日本語・日本文化教育センターは外国人留学生に対する日本語及び日本文化教育並びに、教養・共通教育の実施にあたり必要となる外国人留学生の受入及び学生の海外留学に係る支援等の業務を行うために、国際高等教育院に設置されている [2]。

日本語・日本文化教育センターでは、本学の外国人留学生向けに初級から上級までの日本語教育を提供しており、4 月および 10 月の授業開始までに、それぞれの日本語習得レベルに応じた速やかなプレースメント（クラス分け）を実施する必要があるため、情報環境機構に提供する学習支援環境 PandA を利用してオンラインでのプレースメントテストを行っている。

PandA の利用には本学の情報環境機構で発行する ID が必要であることから、入学前の学生は利用することができない。また、一般に留学生の入学手続きは入国後になる事が多く、PandA の利用には支障をきたす。そのため、プレースメントテスト受講に際してはユーザーの e-mail アドレスを一時利用 ID として利用するワークフローを運用している。

本報告では日本語プレースメントテストのオンライン化 (e-Learning 化) に際して、情報環境機構で行っているサポートと運用について述べる。

2 京都大学の学習支援サービス

情報環境機構では、2013 年度から Apereo Foundation が中心となって開発を進めているオープンソースの学習管理システム (Learning Management System) Sakai [3] を PandA の愛称で導入し、主に「授業資料の提供」、「課題の提出・採点・返却」、「学生への通知」などの機能を全学に提供している (図 1)。



図 1 学習支援サービス PandA

2018 年度は最終的に 1,570 科目が PandA 上でサイト開設を行っており、全学共通科目を中心に教育のインフラとして活用が進んでいる (図 2)。

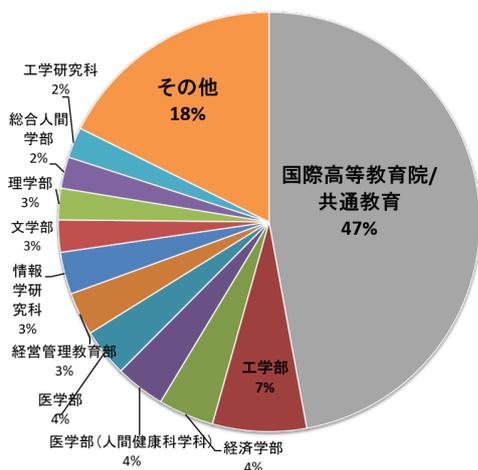


図 2 PandA 利用内訳

PandA は本学で提供される正規の授業以外でも本学の教育での利用に限り提供されており、2018 年度は正規の授業以外の約 30 のプロジェクトで利用されている。

3 京都大学の日本語教育

本学では、大学院を中心に約 2732 名 (令和元年 5 月 1 日現在) の留学生が在籍しており (表 1)、留学生が必要とする日本語のレベルも、日常の日本語が必要であるという場合から、学問分野において高度な日本語能力が求められる場合まで多様である。各々の日本語学習歴も、完全初級者から、母国で相当な学習を積んだ学部生等まで幅広く分散している。

表 1 京都大学の学生数 (令和 1 年 5 月 1 日現在)

	学部生	大学院生	非正規学生
学生	12,998	8,743	-
留学生	237	1,958	537

日本語・日本文化教育センターの行った調査では、文系・理系、学部・大学院、正規生・非正規生を問わず、ほとんどの留学生は日本語学習が不可欠なものと意識し、自らの日本語運用能力の向上を志向しており、本学における日本語教育は非常に重要なものとなっている。

日本語・日本文化教育センターでは、本学の留学生を対象に、単位認定を受けることができる全学共通科目・日本語科目の授業と、単位の修得を目的としない留学生、研究者を対象とする課外の日本語学習支援講座の 2 種類の日本語教育プログラムを実施 [4] しており、それぞれ対応する 5 つの日本語レベルにより構成されており (表 2)、完全初学者を対象としたコース以外はプレースメントテストを利用して受講者のレベルの応じたクラス分けを実施している。

表 2 開講講座とレベル

レベル	全学共通科目	課外の日本語科目
N5	初級 I	日本語入門コース I
N4	初級 II	日本語入門コース II
N3	中級 I	日本語中級講座 I
N2	中級 II	日本語中級講座 II
N1	上級	日本語上級講座 ビジネス日本語 I

4 日本語プレースメントテスト

4.1 日本語プレースメントテストの e-Learning 化

日本語プレースメントテストは PandA のテスト・クイズ機能を利用して日本語・日本文化教育センターで作成している(図3)。テストの語彙・文法・会話読解・漢字表現・聴解(2019年度より導入)の4分野の試験を日本語能力試験の難易度順に応じてN5~N1の問題を出題している。また、テストの受講可能回数は1回のみとし、回答可能時間を80分にする事で、試験の公平性を保っている。クラス分けのための成績評価については、PandAの自動採点機能を利用しているが、一部問題を手動で採点している。



図3 プレースメントテスト

4.2 プレースメントテスト受講の流れ

一般的に、留学生は入学時点まで入国していない事が多く、遠隔地からのプレースメントテスト受講が必要である。PandAをはじめとする京都大学の情報基盤へのログインに必要な全学IDは入学後に発行される。加えて、入学後第一週には授業が開始されるため(表3)、留学生の来日前にプレースメントテストを受講できる環境を用意する必要がある。これを解決するため、PandAの一時ID発行を利用し、以下の運用フローを導入している(図4)。

1. 事前登録サイトでのメールアドレスの登録
2. メールアドレスを利用した一時IDのPandAへの登録と招待メールの送信
3. プレースメントテストサイトへの登録と登録案内メールの送信
4. 受講予定者によるプレースメントテストの受検
5. 受講講座の決定
6. プレースメントテストサイトの登録解除
7. 一時IDの削除

受講者が事前に登録した情報をもとに作成された受講者リストから、メールアドレス・姓・名の情報を抽出し、PandA側に登録する為のファイルを作成する。この際、登録アドレスが京都大学の全学メールアドレスであった場合、すでに情報環境機構の発行するIDを所持していると自動判定されPandAでのプレースメントテストに登録される。それ以外のアドレスを利用して登録した場合、PandAの一時利用IDとしてメールアドレスをゲストIDとして登録し、パスワード設定画面の案内が電子メールで送信される。

表3 2019年度タイムスケジュール

3月11日(月)	事前登録(STEP1)開始
3月24日(日)	事前登録(STEP1)締切
3月27日(水) ~ 3月29日(金)	プレースメントテスト (オンライン実施)
4月3日(水)	結果メール配信
4月8日(月)	授業開始 履修科目登録(STEP2)開始 履修科目登録相談期間開始
4月11日(木)	履修科目登録相談期間締切 履修科目登録(STEP2)締切
4月24日(水)	最終プレースメントテスト
4月26日(金)	受講登録最終締切

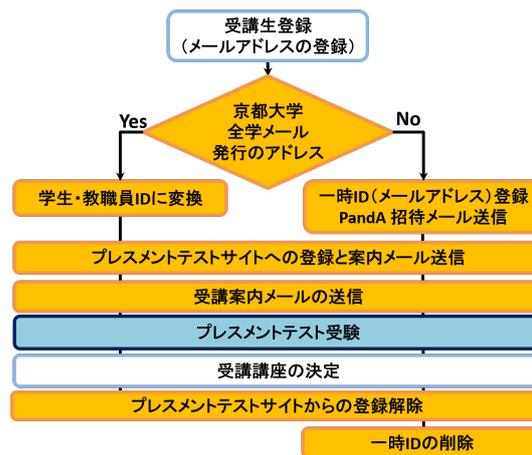


図4 プレースメントテスト登録フロー

表3で示した一連のタイムスケジュール終了後、一定期間(2~3週間後)に一時IDを削除する。一般に、学習支援環境では一時IDを同時に大量に削除する運用は考慮されていないため、情報環境機構では独自に

RestAPI 機能を利用した一時 ID を一括削除するスクリプトを作成し運用している。

4.3 プレースメントテスト実施状況

2019 年度前期は 1 回目は 389 名（受験者 360 名）、2 回目は 130 名（1 回目未受験者 31 名を含む）、3 回目は 21 名のプレースメントテスト受講登録があり、内、32 が京都大学の ID をすでに所持していた。主な不具合としては

- ログイン時の ID・パスワード登録に関する QA
- すでに京都大学の ID をもっているが、別のメールアドレスを登録してしまった
- PandA のメンテナンス時間にアクセスしてしまい、テストが途中で受験できなくなった
- 途中でシステムがフリーズし自動提出されたため最後まで受験できなかった

などが寄せられたが、ほぼ問題なくプレースメントが実施された。

5 まとめと今後の課題

本報告では 日本語プレースメントテストのオンライン化 (e-Learning 化) に際して、情報環境機構で行っているサポートと運用を中心に述べた。

今後の課題としては、学習支援環境 PandA のプラットフォームは 2020 年度をターゲットに最新システムである Sakai 19 への更新を予定しており、新環境でのプレースメントテストの実施に問題ないかの検証が必要となる。また、現在のプレースメントテストでは測れないタイプの日本語能力試験への対応などが挙げられる。

参考文献

- [1] 外村孝一郎, 京都大学における Sakai による学習支援システムの導入と運用, 大学 ICT 推進協議会 2013 年度年次報告, 2013
- [2] 京都大学 附属 日本語・日本文化教育センター, <https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/introduction/education-center-for-japanese/>
- [3] Apereo Foundation. <https://www.apereo.org/>
- [4] 日本語・日本文化教育センターが提供する日本語教育について, <https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/introduction/education-center-for-japanese/japanese-language-classes>